

令和6年 6月 3日

関係者 各位

J Aたがわ 園芸畜産課
課長 山本 明広

白ネギ産地化に向けた勉強会の開催について



みだしのことにつきましては、J Aたがわの方針である「農業者所得の増大」「農業生産の拡大」に向けた取組の一環として高収益作物の産地化を目指しています。産地となるためには大ロットかつ安定的に市場に供給することにより、市場及び顧客から信頼を得ることが必要不可欠であり、そのために機械化による大規模生産に向けた試験栽培等を行っています。

そこで今回、関係者の皆様に結果報告を含め白ネギ市場の状況や生産についての勉強会を下記のとおり開催し、白ネギの産地化を目指したいと思っておりますので、ご多忙中とは存じますが、ご出席をお願いいたします。

記

- 1 日 時 令和6年6月14日（金） 14：00
- 2 場 所 J Aたがわ 川崎集荷場 会議室
(ナフコ川崎店下)
- 3 内 容
 - ①白ネギ販売状況説明及び田川産白ネギの販売に対する期待について
 - ②白ネギの機械化による生産体系について
 - ③白ネギ機械化生産試験結果報告など

連絡先：J Aたがわ 川崎集荷場
山本 丹村

TEL 42-0592

◆ 白ネギの産地化を目指す!!

西日本の特に九州では、うどんやラーメンの薬味として「博多万能ネギ」などの青ネギが使用されていますが、現在白ネギ(根深ネギ)の需要が徐々に高まっています。

その需要に応えることや、水田転作作物の高収益作物として農家の所得向上を図られる白ネギの栽培が福智町伊方地区で行われています。しかしながら、市場からは安定した出荷量が求められるため、栽培面積の拡大を進め産地化による規模拡大が必要となる事から、その対策として産地化で作業を行うには機械化が必要となります。

中でもポット移植機による植え付けは多くの労力が軽減できるので、ポット移植による作付け体系を確立しなければなりません。ポット苗の育苗は、育苗床の技術による要因が大きく、均一の生産は難しいとされてきました。今回、JAたがわ育苗セ



ンターでポット育苗の試験を何度も試みた結果、均一な苗の生産ができるようになりました。均苗の大量供給ができるようになれば機械化体系の実現に向け大きく前進します。

本年7月に機械(全自動定植機)による植え付けを実施し1人で1反の作付けが1時間ほどしかかからず、規模拡大につながる事が確認できました。

今後は水田での栽培技術の確立の為に研究を行い、作付け面積の拡大を図り白ネギの産地化を目指します。



▲福智町伊方地区 松井清司氏のほ場